

伝統工芸品の普及に向けた事業・知財戦略を構築

会社名 有限会社印傳の山本
 所在地 山梨県甲府市朝氣3-8-4
 従業員 5名
 資本金 1,000万円
 売上高 7,000万円
 業種 甲州印伝商品の製造・販売



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 甲州印伝の伝統技術・技法を継承しつつ、家業型からビジネス指向の事業体へ転換・発展させ、甲州印伝のさらなる普及と地場産業の振興に尽力していきたい。
- そのために、新商品開発、新市場開拓や、それを実現するための技術開発等が必要になってきている。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 上記目標を実現するための事業戦略について、それを進めるための軸となるコンセプトを設定でき、またそれを支える知財戦略も確立できた。
- 具体的な知財活動例として、商標出願2件、意匠登録4件を実践。またブランディングについても精査し、サイト改修等を実施。

今後の事業展開の展望

Future

- 事業戦略や知財戦略の方向付けはできたが、実行については途上であるため、着実に実行へと移行することによって当社商品の市場浸透を図っていく。
- 例えば、SNS活用や、海外展開を見据えた情報発信等を実行していくことによって、販路開拓へとつなげていく。

重点支援を受けた事業や商材



伝統的図柄(甲州印伝)を使った袋物・財布物・バッグ・小物等の製作・販売を支柱事業として展開している。これとは別で、他業種とのコラボ商品開発、ゆるキャラ等を取り入れた新商品開発にも取り組んでいる。

当社は伝統工芸士による長年の信用や耐久性、肌触り、カラーバリエーション、企画力に強みがあり、こうした強み・実績が評価され、これまでに全国伝統的工芸品公募展で会長賞を受賞したほか、全国中小企業団体中央会会長賞、バイヤー賞、全国伝統的工芸品公募展内閣総理大臣賞および若手奨励賞の受賞歴がある。

【出典】有限会社印傳の山本ホームページ
<https://www.yamamoto-inden.com/products>

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
中長期的な事業戦略の検討	事業目標に向かうための中長期的な戦略が定まっておらず、取組の出発点として整理しておく必要がある。
事業戦略を見据えた知財戦略の検討	従来と異なる事業展開を見据えた場合には、そこで必要となる知財面からの対応方針を練っておく必要がある。
研究開発・商品企画に必要な知財活動	外部者との協働が増えてきている現状に照らし合わせた際に、知財・契約面での対応が急がれる状況である。
製造に係る生産性向上・キャパシティ拡充に向けた検討	今後の戦略を実行へと移していく際は、製造体制の整備が不可欠であり、現段階からその点を考えておく必要がある。
新たな事業展開に即した営業・販売方法の検討	企画提案型のビジネスを志向していくに当り、開示できる情報の精査やブランド管理等の論点が発生している。
知財管理体制の整備	戦略を実行へと移すまでに、知財活動や契約、ノウハウ管理等のできる体制を構築しておく必要がある。
海外展開の戦略・準備	海外展開を考えているものの手つかずであり、プランを設計しておく必要がある。

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
戦略の方向性を明確化	<ul style="list-style-type: none"> 「多色」「コラボレーション」「伝統工芸士の技」「新時代を作る先見性」の4つを戦略の軸として設定 「甲州印伝」の伝統的技術・技法と、伝統に拘らない感性やコラボによる新商品開発を両立させて進める方向性を整理 	ブランド専門家
知財戦略の確立と実行	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略の方向性にあわせて知財戦略を設計 ブランディングの視点も取り入れながら、模倣困難な環境づくりを検討 これを体現する活動として、商標出願2件、意匠登録4件が実現 	弁理士、ブランド専門家、知財戦略AD
営業・生産の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ブランディングの検討結果を受けて、自社サイト修正に着手 生産工程の見直しおよび製造キャパ対応方法を確認 	WEB専門家、事業戦略専門家

支援チーム紹介

リーダー専門家:弁理士 田中 正男

活用専門家:ブランド専門家、WEB専門家、事業戦略専門家、知財戦略AD

知財総合支援窓口担当者:山梨県知財総合支援窓口 近藤 功

PO(プログラムオフィサー):中 隆廣